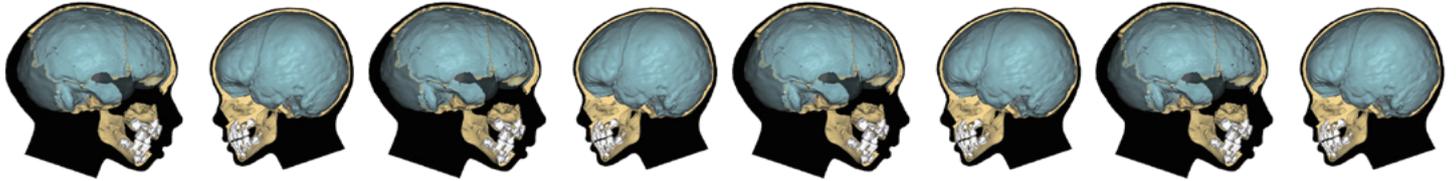


公開講演会

なぜネアンデルタール人はいなくなったのか —学習仮説からの展望



日時

2015年
7月5日 日 13:00-17:00
(開場 12:00)

会場

東京大学本郷キャンパス
理学部2号館講堂

主催

文部科学省科学研究費補助金・平成27年度 新学術領域研究
「ネアンデルタールとサピエンス交替劇の真相：
学習能力の進化に基づく実証的研究」(2010-2014)

入場無料
定員200名
(先着順)

PROGRAM

13:00-13:10

ごあいさつ
赤澤 威 (高知工科大学)

13:00-14:00
(講演40分+質疑応答10分)

学習仮説から見た交替劇
青木健一 (明治大学・東京大学)

交替劇は、最終的には数(人口)の問題に帰着します。集団サイズと文化水準の関係についてのモデルを記述し、現生人類によるネアンデルタールの競争的排除が起きた条件を考察します。

14:00-14:50

考古学から見た学習仮説
—新人と旧人の文化格差はいつ生じたか
門脇誠二 (名古屋大学)

従来は、新人がヨーロッパなどへ地理分布を広げる以前に生じた文化革新が旧人との文化格差となり交替劇の要因になったと考えられていましたが、この通説に再検討をせまる最新の考古学研究の成果について紹介します。

14:50-15:10

休憩

15:10-16:00

化石脳から見た学習仮説
荻原直道 (慶應大学)・田邊宏樹 (名古屋大学)

ネアンデルタール人の化石頭蓋骨の詳細復元と、そこから推定した化石脳から、ネアンデルタール人とサピエンスの脳の形態差が明らかとなってきました。両者の脳の形態差から、学習仮説を考えます。

16:00-17:00

総合討論
西秋良宏 (東京大学)

公開講演会

なぜネアンデルタール人はいなくなったのか — 学習仮説からの展望

開催趣旨

ネアンデルタール人は約20万年前から4万年前頃までヨーロッパ、西アジアなど西ユーラシアに広く展開していた古人類です。私たち現生人類と接触したことがわかっていることもあって関心が高く、研究も盛んで、容貌や行動について最もよく解明されている化石人類の一つとなっています。現在の狩猟採集民と遜色ない生活をおくっていたと考える研究者もいます。しかし、今もって判然としないのは、では、なぜ現生人類にとってかわられてしまったのかという点です。

私どもは、これまで5年間、その真相を解き明かそうとする大型プロジェクト『ネアンデルタールとサピエンス 交替劇の真相 — 学習能力の進化に基づく実証的研究』をすすめてきました。さまざまな仮説が提示されてきた中、このプロジェクトが着目したのは、その副題にもかかげられているとおり、「学習という切り口です。ネアンデルタールとサピエンスの間には学習の能力やあり方に違いがあり、それが文化格差をうみ、両者の交替劇につながったのではないか。この作業仮説、すなわち学習仮説をかかげ、その検証にあたってきました。

今回の公開講演会は、交替劇プロジェクトが一区切りを迎えたのを機に、検証結果の一端を報告するものです。理論生物学、考古学、脳科学、それぞれの立場から独自の成果を提示し、学習仮説の妥当性について議論します。

講師紹介

赤澤 威 あかさわ たける
高知工科大学・名誉教授

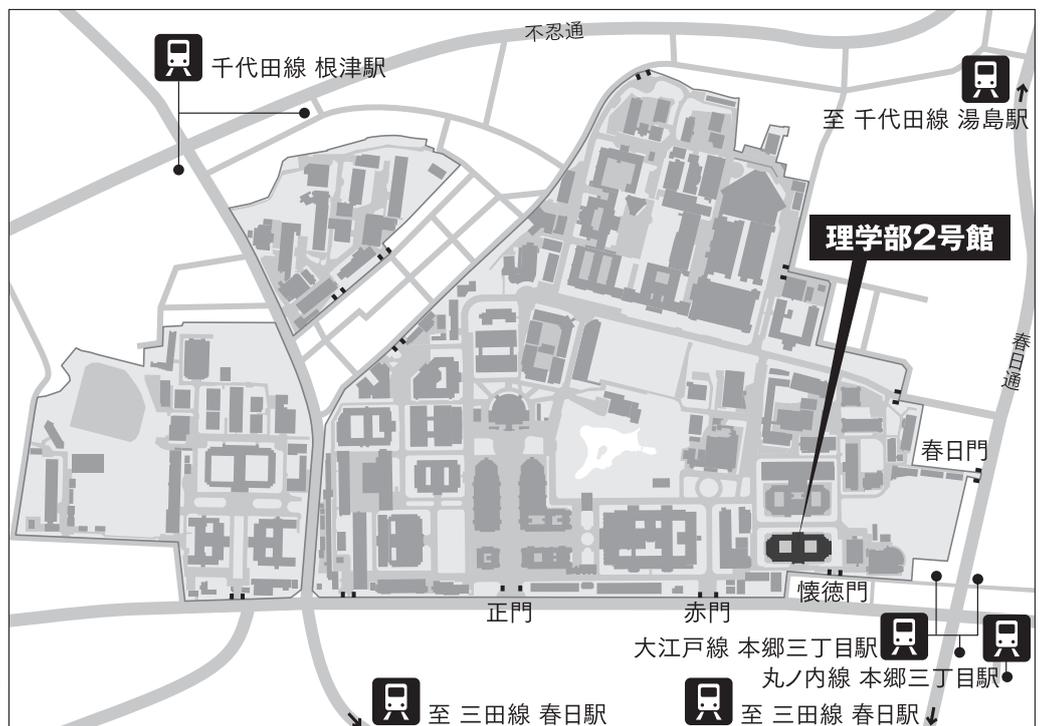
青木 健一 あおき けんいち
明治大学・客員研究員、東京大学・名誉教授

門脇 誠二 かどわき せいじ
名古屋大学・博物館・助教

荻原 直道 おぎはら なおみち
慶應義塾大学・理工学部・准教授

田邊 宏樹 たなべ ひろき
名古屋大学・大学院環境学研究科・准教授

西秋 良宏 にしあき よしひろ
東京大学・総合研究博物館・教授



会場●本郷キャンパス
理学部2号館講堂

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1